

IFLA – UNESCO 学校図書館宣言 2025

学校図書館プログラムは、
あらゆる長期的な教育戦略にとって不可欠です。



令和7年度 県立長野図書館協議会(第1回)話題提供

アドボカシーから実行へ

第5次長野県子ども読書活動推進計画への期待

青山学院大学 庭井史絵

fniwai@ephs.aoyama.ac.jp

ビジョン、使命と目的

学校図書館プログラムは、

- 適切な有する学校図書館特有の役割の配置
- 質の高いコレクション、資源、デジタルソリューションへのアクセス
- 多様な学習環境の向上と包括的学習環境の整備
- シラキュース、批判的思考、創造性、グローバル・シティズンシップ育成のための積極的な取組
- 公平性に基づいた方針と指導
- 関連「世界人権宣言」の価値を促進し、学校コミュニティ全体の教育と学習を改善し強化します。

これらの取り組みによって、学校の全構成員が

- 社会的に包摂的。
- 効果的な読み手。
- 責任を担ってあらゆる形態の情報を活用し、評価し、創造し。
- 生涯にわたって図書館を利用し続ける力を身につけます。

運営と管理

学校図書館専門員は、

- 資格を有し、専門的なメンバーであり、
- 多岐にわたる知識とスキルを有し、
- 優れたリーダーシップを有し、
- 学校図書館の発展およびプログラムの運営と管理に貢献し、
- 適切なデジタルリテラシーとデジタルコンピテンシーを専門的に教えることができる。
- 学校と生徒の両方に対して責任をもちます。

学校図書館プログラムは、

- 効果的な成果を達成し、
- 倫理的に実行され、
- 学校図書館によって支援され、
- 十分な資源が確保され、
- 専門的な基準に従って実施され、
- 関係する全ての全構成員がアクセスでき、
- 継続的に改善されるべきです。

宣言の全文はこちら
<https://repository.ifla.org/handle/10565/14384/4022>

すべての子どもが学校図書館プログラムの恩恵を受ける権利があります。



1

自己紹介

- 西宮市立小松小学校
学校司書
- 甲南高等学校・中学校
学校司書
総合的な学習の時間(講師)
- 慶應義塾普通部(中学校)
専任司書教諭

2019年より 御代田町在住

- 軽井沢風越学園開校準備室(ライブラリー担当)
- おもがえっコ(信州型フリースクール認証施設)図書室づくり支援



- 青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 准教授
図書館情報学・教育学
- IFLA(国際図書館連盟)学校図書館部会委員

2

本日お話しすること

- アドボカシーのためのツールを整える
 - IFLA-UNESCO 学校図書館宣言2025
 - IFLA-UNESCO 公共図書館宣言2022
 - 児童サービスガイドライン
- 長野県子ども読書活動推進計画を読む
- アドボカシーから実行へ
 - フリースクール図書室づくりから子どもの読書環境を考える
 - オランダ公共図書館の学校支援から教員サポートを考える
 - 長野県の子どもの読書活動推進計画に期待すること

3

アドボカシーのためのツールを整える

4

IFLA-UNESCO 学校図書館宣言を翻訳して

- 1999年：第一版公開。
- 2021年：IFLA学校図書館部会+IASLが改訂版を発表。
- 2023年：IFLA理事会が改訂版を承認。
- 2025年：UNESCO IFAP理事会で最終承認、「IFLA-UNESCO学校図書館宣言2025」として発表。各国語版が順次公開。
- 改訂の目的：質の高い包摂的教育を支えるアドボカシーのツールとする。
- 主な変更点
 - SDG4（質の高い教育）との連携
 - 安全な学習環境の重視
 - 継続的なモニタリング・評価・説明責任
 - リーダーとしての学校図書館専門職の位置づけ

Home • IFLA • IFLA Publications • IFLA-UNESCO 学校図書館宣言

IFLA-UNESCO 学校図書館宣言 2025

Abstract

「IFLA-UNESCO 学校図書館宣言 2025」は、1999年に発表された「IFLA/ユネスコ 学校図書館宣言：すべての人々のための持続可能な学校図書館」の改訂版である。新しい版では、デジタルリテラシー、社会、教育における多くの変化が反映されており、質の高い包摂的教育を支える学校図書館のアドボカシーにとって重要なかつ有用なツールとなっている。本宣言は、IFLA、IASL、そして世界中の学校図書館コミュニティによる協働の結果である。2025年8月13日に、IFLA学校図書館部会理事会委員会の承認、国際学校図書館部会によって英語版が採用され、2025年4月17日にIFLA理事会により承認された。その後、2025年9月に開催されたユネスコ「みんなのための持続可能な教育 (IFAP)」政府間理事会第13回会合において正式に承認された。

Keywords

School libraries, School libraries, School library education, School library services, Advocacy, Sustainability

URL

<https://repository.iflanet.org/handle/20.500.14588/4025>

Collections

IFLA Publications

Full form page

5

「学校図書館宣言」のポイント

- 学校図書館を「現代教育のラーニングコモンズ」と位置づける
- すべての子どもに対する「包摂的かつ公平な読書・学習機会」を保障する
 - 学習と読書の空間・経験・資源
- リテラシー・批判的思考・創造性育成における学校図書館の役割を強調している
- 読書を「知識、理解、想像力、楽しみ」のための自主的活動と捉え、生涯学習を促す
- 地域社会および広範な情報ネットワークとの連携を求める
- 国連SDGsと連携し、各国政府や自治体に戦略的な支援を要請している
 - 第4:すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

6

「学校図書館宣言」の具体的メッセージ

- 知的自由と検閲から保護する
- 教職員に学習機会を提供する（資源・指導法）
- 学習者に生涯にわたる図書館利用を促す
- 学校内外のコミュニティを巻き込む
- 各国政府・自治体・教育委員会に戦略への組み込みを要請する
- 計画を**アドボカシー**として機能させる

7

アドボカシーとしての「学校図書館宣言」策定

IFLA-UNESCO School Library Manifesto

＝理念＋政策形成＋実現を促す“アドボカシー・ツール”

アドボカシー

- 声を届ける・権利を守る働きかけ
- 福祉・教育分野にも広く用いられる（例：子どもアドボカシー）
- 図書館文脈→価値を社会・政策に反映させる活動
- 声を上げにくい人の権利やアクセスを代弁

8

IFLA-UNESCO 公共図書館宣言 2022

- あらゆる種類の知識へのアクセスと情報提供、
そして知識の生産・共有を可能にする地域の窓口になる
- 教育・文化・社会的包摂・情報の活力を支える
- 検閲や商業的圧力に屈せず、多様な情報や意見への自由なアクセスを保障する
- 生涯学習や市民参加を促す
- SDGs達成に寄与する

＝アドボカシー文書として国や地方自治体に責任と関与を促す



<https://repository.ifla.org/items/dfa166f4-593c-4e20-85c5-84b461b498ca>

9

IFLA 児童図書館サービスのためのガイドライン

- 0～18歳を対象とする
- 識字・探究学習・読書支援をサービスの核に
- 子どもの権利条約・SDGsと連携
- アクセシビリティと多様性を重視
- 学校・地域・福祉機関との協働を推奨

＝子どもを支える国際的なアドボカシー



<https://repository.ifla.org/items/ee60db2b-6775-4d34-b728-898bf334b6e0>



10

三つのIFLA文書に共通する要素

長野県子ども読書活動推進計画を検討する補助線として

- 専門職（司書・学校図書館専門職）の役割の重視と継続的な専門性開発
- 包摂性、公平性、多様性への配慮とアクセス保障
- デジタル社会への対応と多様な情報源の活用
- 関係機関との連携・協働と広範な情報ネットワークの構築
- 国連SDGsと子どもの権利条約との連携、およびアドボカシー

11

長野県子ども読書活動推進計画を読む

12

県計画の基本理念／IFLAとの共通要素

- 4つの視点（読書体験／多様性／デジタル対応／子ども視点）
- IFLAが目指す方向性と共鳴
 - 多様な子どもの機会確保=アクセスの公平性
 - デジタル対応=デジタルデバイド克服
 - 人的体制の整備=専門職・研修の重視
 - 社会的気運の醸成=アドボカシー活動

=県計画は国際的な図書館・読書活動推進の潮流に沿った方向性を持っている

13

IFLAの方向性を踏まえて強化できそうな要素

- 知的自由や検閲からの自由への言及
- 情報倫理・誤情報対策の明示
- 子どもの主体的な意見表明・計画への参加の具体性の強化
- 教育活動への積極的関与・教職員への支援
- 積極的なアウトリーチ活動の推進

14

アドボカシーから実行へ

15

実践／研究から見る計画 ①

フリースクール図書室づくり

- “多様な子ども”への視点
- 学校外の子どもの読書機会
- 地域の公共図書館と結びつける
- 子どもの主体的関与
- 地域社会／大学との協力・情報共有



16

まとめ

- 国際的な潮流＝県計画を読む補助線
- 長野県計画は国際潮流と響き合う強み
- 課題：知的自由・情報倫理・連携・評価
- 本計画への期待
 - この計画自体がアドボカシーとなり、具体的な変化につなげる
 - 取り組みと成果の可視化